

第2回

リマテック株式会社(東北支社)

～岩手県大船渡市内における災害廃棄物の処理～



リマテック(株)提供

再生処分部会の第2回目の調査事業として、4月12日にリマテック株式会社大船渡事業所を視察した。

2011年3月11日に発生した東日本大震災は、16年前の阪神大震災をはるかに超える国内観測史上最大の大地震であった。東北地方の太平洋沿岸部は地震と津波により壊滅的な被害を受けた。

リマテック株式会社は、主要顧客である太平洋セメント株式会社が岩手県大船渡市で操業、また、2004年より青森・岩手県境における不法投棄現場原状回復事業に携わっており、東北地方には以前より深いつながりがあったことから、東日本大震災の震災廃棄物の処理及び復興支援に逸早く対応した企業のひとつである。

同社は阪神淡路大震災の震災廃棄物除去業務を請け負った経験から、復興には災害廃棄物処理計画策定のスピードが重要であると感じられ、発生後間もない3月16日には秋田経由で岩手県に入り、自治体担当者とはさまざま協議を重ねた。策定された災害廃棄物処理計画の基本方針は「災害廃棄物処理に伴って地域雇用を創出し、その後の地域復興を加速させる」とし、地元企業を中心に、太平洋セメント株式会社大船渡工場の協力を得ながら、協業体制を確立、処理計画の遂行を目指した。できるだけ迅速かつ円滑な対応が必要と感じた同社は、4月20日には東北支社を登記、東北支社を岩手県内での活動拠点と位置付け、全社挙げてバックアップ、社内リソースを有効に活用できる体制を整備した。

地震による大津波で大きな被害を受けた大船渡市や陸前高田市では、がれき類だけでなく、沿岸部にある水産加工業者の倉庫や工場から発生した水産廃棄物の処理が大きな問題となっていたが、関係各方面と粘り強く交渉・調整を重ねた結果、震災から3カ月あまりが経過したところで、本来、条約で禁止されている「水産廃棄物の海洋投棄による処理」が特別に認められた。地元建設業協会や被災された水産加工会社の従業員の協力を得て、海洋投棄を行う準備として手作業による選別作業